

平成30年度 第1回北海道立釧路芸術館運営協議会議事録

日 時 平成30年7月25日(水) 午後2時00分～午後3時30分
場 所 北海道立釧路芸術館 アートホール

○出席委員 9名

○館出席者 6名

○釧路芸術館共同事業体運営委員会
運営委員 1名

- 【議 事】(1) 平成29年度事業報告
- ア 展覧会事業
 - イ 芸術・教育普及事業
 - ウ 施設の利用状況
 - エ 作品収集状況
- (2) 平成30年度事業計画
- ア 展覧会概要及びスケジュール
- (3) その他

1. 開 会

館長より、平成30年度第1回北海道立釧路芸術館運営協議会の開催する旨の挨拶。

2. 挨 拶

運営委員より、今年度から釧路芸術館の管理運営を任されたこと、平成29年度事業報告と平成30年度事業計画について、闊達なご意見を賜りたい旨の挨拶がなされた。

3. 協議会成立について

館長より、平成30年度第1回北海道立釧路芸術館運営協議会の開催にあたり、委員数14名中9名が出席となり、運営協議会規則第7条2項により成立する旨を宣言し、議事に入った。

4. 指定管理者に関する説明

館長より、釧路芸術館共同事業体として、株式会社コンベンションリンクージと株式会社N T Tファシリティーズ北海道が今後4年間の管理運営を行っていく旨、説明。

5. 議 事

(1) 平成29年度 事業報告

館長より、展覧会事業について説明。

「無言館展」では会期終盤に観覧者が増加傾向にあったが、結果的に総観覧者数が目標に届かなかった点。「安野光雅展」では幼稚園等への働きかけにより、団体の観覧も多く、想定以上の観覧者数となったことなどを説明。また、新しい試みとして、お客様からぬいぐるみをお預かりして、あたかも館内を探検しているかのように撮影し、ホームページや Facebook で公開する「ぬいぐるみおとまりかい」を、「ももちゃん芸術祭 2017」の会期中に実施したことを報告。

次に、教育・普及及び自主事業の実施状況について説明。出前講座等、学芸員との連携のもと釧路・根室管内の小中学校で実施している旨の報告がなされた。また、平成29年度受贈作品や管理目標達成度評価についても併せて説明がなされた。

会長 館全体の総観覧者数では目標を何とか達成できたが、本命である特別展の観覧者数は、「安野光雅展」を除いて軒並み下回ってしまった。この結果を総括としてどのように捉え、今後の事業にどのように反映していくおつもりですか。

館長 「高倉健展」について調べた結果、平成29年度の他の展覧会より女性の観覧者の割合が目に見えて低かったことがわかり、女性に響くかどうかが観覧者数に大きく影響を与えるのではと考えました。

会長 どのような層が足を運んでくれるかということ、年齢や色々なファクターがあると思うのですが、そのようなことを引き続き考えながら観覧者数の向上を図っていただきたいと思います。

委員 資料7の芸術・教育普及・自主事業計画の11番目に釧路市関連事業とありますが、「バリアフリーコンサート」は代表の松田さんが大阪在住で、プライベートで釧路市職員が出演はしていますが、釧路市関連事業ではなく、その他の事業に含まれるものと思います。

館長 釧路音楽協会様の協力のもと開催してきた経過から、釧路市関連事業という位置付けにさせて頂いております。

会長 中身をもう一度精査して頂いて、次年度以降どちらに含めるべきかということを検討して頂きたいと思います。

(2) 平成30年度 事業計画

学芸主幹より、平成30年度展覧会事業「八戸輝生展」から「ピカソ版画展」までの5展覧会事業計画について説明。

続いて館長より、平成30年度教育普及・自主事業について説明。

委員 今年度は道新との実行委員会形式の展覧会がないということで。倉本聰展が今年度のメインの展覧会だと思うのですが、広報展開はどのようにしていくおつもりですか。

館長 本展覧会は、道新釧路支社と釧路市、市教委、釧路芸術館の四者で実行委員会を組む、事業を行っていくものであります。

道新釧路支社にはできるだけ多くの記事や広告を掲載して頂けるよう働きかけていきたいと思っております。

学芸主幹 倉本聰事務所のご協力で、チラシを万単位で配布してもらえらることになりました。先方の人脈を活用しまして、演劇関係や生協等にチラシを設置して頂くこととなりますので、今までとは違うルートでも集客ができるのではと期待しております。

また、点描画については6月に札幌市のプラニスホールで展示されましたが、釧路芸術館ではそれに加えて「北の国から」のドラマの資料ですとか、原発事故後の福島で制作した道内初公開の点描画の展示も行いますので、多くの方々に見に来て頂きたいと思っております。

委員 先日札幌に行く機会があり、オーロラタウンから道新ホールに抜ける地下通路の横に、「美術館に行こう」という宣伝コーナーを見かけました。そこに4つの美術館に関するポスターが貼ってあり、函館美術館の「ダリ版画展」や旭川美術館の「フランス近代絵画展」、近代美術館の「日本の美・百花繚乱展」、釧路市立美術館の「棟方志功の福光時代展」が紹介されていました。

これは道新さんの絡んでいるものしか掲示してもらえないのでしょうか。市立美術館が掲載されているなら、芸術館もと思ったのですが。

学芸主幹 まさに道新さんが主催に入っている展覧会ばかりですので、スペースを借りて掲示を行っていると思います。

道教委が行っている北海道アートギャラリーという事業のポスターやチラシの方に釧路芸術館が掲載されていまして、道庁赤レンガ庁舎の広報スペースでも、釧路芸術館はこのような取り組みをしていますという紹介がなされております。

委員 昨年の高倉健展の時はアートシネマ館で主演作品の「刑事」を上映しましたが、今後はメインになる展覧会に合わせて、関連作品を2か月連続で上映できれば、「来月は続編が見られるみたいだよ」と、展覧会とアートシネマにリピーターを呼び込めるのではないですか。

もう一つは、展示室に撮影が可能なスペースを設けて、「インスタ映え」するような写真が撮れる環境があれば、未来のメイン観覧層になりうる若い女性たちにネットで拡散して頂けるのではと思います。

学芸主幹 展覧会とアートシネマ館等との連携については、早い段階で検討していきたいと考えています。

写真撮影については、全国の美術館でも近年大きな魅力の一つになっていまして、当館の八戸耀生展やイヌイットの壁かけ展でも撮影OKにしています。今後もできる限りそういった場を設けて、集客を図っていきたいと考えております。

会長 川瀬敏夫さんについては、釧路市内の学校で長く教鞭を執っていらしたので、教え子の方々が道内にも多くいらっしゃると思います。

そうしたコネクションを通して、いろいろ広めて頂けたらなと思います。地元の作家を紹介するというのも芸術館の大きな役割の一つなのではないでしょうか。

会長 私の方からもう一つ、数のことばかりで恐縮ですが、平成30年度の総観覧者目標数は24,900人と、前年度より低く設定されていますが、この数の根拠を教えてください。

館長 確かに、道教委が提示した平成30年度の総観覧者目標数は24,900人となっていますが、この後31、32、33年度と段階的に増加する形で設定されています。

先日道新で釧路・根室管内の人口動向の記事が出ておりましたが、1995年からみると18パーセントくらい減っているのです。そ

の中で目標値だけが上がっていますので、知恵を絞りながら達成に向けて努力していかなければならないと感じております。

会長 過去5年間の観覧実績の平均値を基に若干右肩上がりになるように目標設定がされているわけですが、地域人口減少の中で年々上昇する目標の達成が求められるという厳しい状況を、皆様にはご理解頂きたいと思います。

学芸主幹 先程平成29年度の作品収蔵について報告させて頂きましたが、道教委では平成元年度から「北海道立美術館等作品収蔵計画」というものを立てまして、作品の収蔵・活用に関する方針と計画を明文化し、それに基づいて各館が作品を収集して活用するというものをしてきました。

釧路芸術館は平成10年度開館ですから、その年に策定された第2期作品収蔵計画からこの計画に沿って、「映像芸術」「自然と芸術」「地域と芸術」という3つのテーマで収集してきました。この計画は10年ごとに見直しているのですが、平成30年度は第3期の計画が終了する年でありますので、現在第3期の収蔵と活用に関する評価と来年度から10年間の方針となる第4期の作品収蔵計画の策定に向けて準備を進めております。計画が固まった段階で、ご報告させて頂きます。

館長 次回の運営協議会の日程は平成31年2月中旬頃を予定しております。決定しましたら、改めてお知らせ致します。

会長 コンベンションリンケージさんが新たな指定管理者として、釧路芸術館の管理運営をどのような方針でされていくご予定かということと、4月から数か月たちましたので、現状として運営等どのような状況であるのかということをお聞かせ願えますか。

運営委員 運営協議会の皆様のご意見を反映しながら今まで進めてきたことを踏襲しつつ、それをさらに発展させた形で、管理運営をしていきたいと考えております。

弊社は東京に本社がありまして、全国二十数施設の指定管理を行っており、道内では札幌コンベンションセンターの管理運営を8年間続けてきましたので、今まで培ってきたノウハウと釧路・根室地域の特色とをうまく融合させながら、進めて行きたいと思っております。

弊社としては芸術施設の管理はあまり経験がないのですが、様々

なイベントを経験していく中で、色々勉強させて頂きたいと思いますので今後ともご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い致します。

会長

北海道立美術館施設として指定管理制度を導入したのは、釧路芸術館が初めてということで、さらに指定管理者が変わったというのも初めてのケースなわけであります。引継ぎ等含め諸々大変なことがあるかと思いますが、是非とも頑張っ、て、道東の道立美術館施設として発展させて頂きたいと思います。

運営委員より閉会の挨拶があり、北海道立釧路芸術館平成30年度第1回運営協議会は終了となった。